

この本、
いかがですか？

“アドバンス助産師に関して、 迷った時、困った時に開きたい本”

評者

武藤香子

助産所「ままと赤ちゃんの家」代表助産師、栃木県助産師会会長

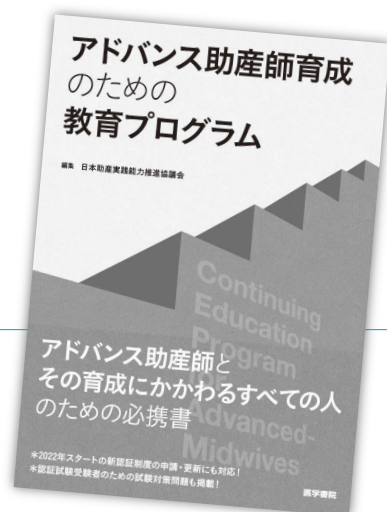
皆

さんは、アドバンス助産師(CLoCMiP® レベルⅢ認証)をこれから申請する方でしょうか？ それとも更新した方でしょうか？ 私は、現在更新を延長している状況にあり、「今年こそは更新しよう！」と何度も本書を開きました。

また、私は栃木県助産師会において教育計画に関わらなくてはならない立場にいます。実際に、「妊娠期のフィジカルアセスメント」「母体救急と産科出血」の研修計画を立案し、実施しました。その骨子は、本書の研修プログラム例を参考にしています。教育技法をほとんど学んだことのない私にも理解できるように、簡潔にまとめられています。

本書は、2015年に発刊された『助産実践能力育成のための教育プログラム』（医学書院）の内容に「ウィメンズヘルスケア」の解説を加えた、アドバンス助産師申請・更新・育成のための解説書です。また、「助産師に必要な臨床推論力」と「助産師の成長過程支援」および「教育技法」も加筆され、さらに魅力的な内容になっています。『ウィメンズヘルスケア』って結局何なの？ 臨床推論って何？』という方にも、専門家が分かりやすく、概念から教えてくれます。

2015年の初回認証以降、1万人以上のアドバンス助産師が誕生し、活躍しているそうですが、周囲からは「何の役に立つのか分からない」「上司に言われて仕方なく申請した」といった



アドバンス助産師育成のための 教育プログラム

日本助産実践能力推進協議会 編集

本体 3000 円+税

B5 判/医学書院/2021 年

声が聞こえてきます。本書はきっと、そうした疑問や意見に答えを与えてくれるでしょう。平井¹⁾は「看護は専門職である。長期の教育訓練を受けなければ獲得できない、独自の専門的知識・技術に基づく仕事に従事する職業である。その実践の基盤は専門的知識体系と教育体系である」と述べています。助産師も一度免許を獲得したらそれでよし、という類の職業ではなく、継続教育を生涯続けなければならないのです。専門職者としての誇りをもって助産実践能力を向上し続けたいものです。

アドバンス助産師をこれから申請・更新する方には、ポートフォリオの作成や、更新要件の内容、評価の実際などのページが、施設や組織での人材育成にあたる管理者には教育計画のページが、研修会を開催する立場の方には研修プログラム例のページが参考になることでしょう。まずは本書を手元において、迷った時、困った時に開いてみることをお勧めします。①

【参考文献】

- 1) 平井さよ子：改訂版 看護職のキャリア開発一転換期のヒューマンリソースマネジメント。日本看護協会出版会、2009。